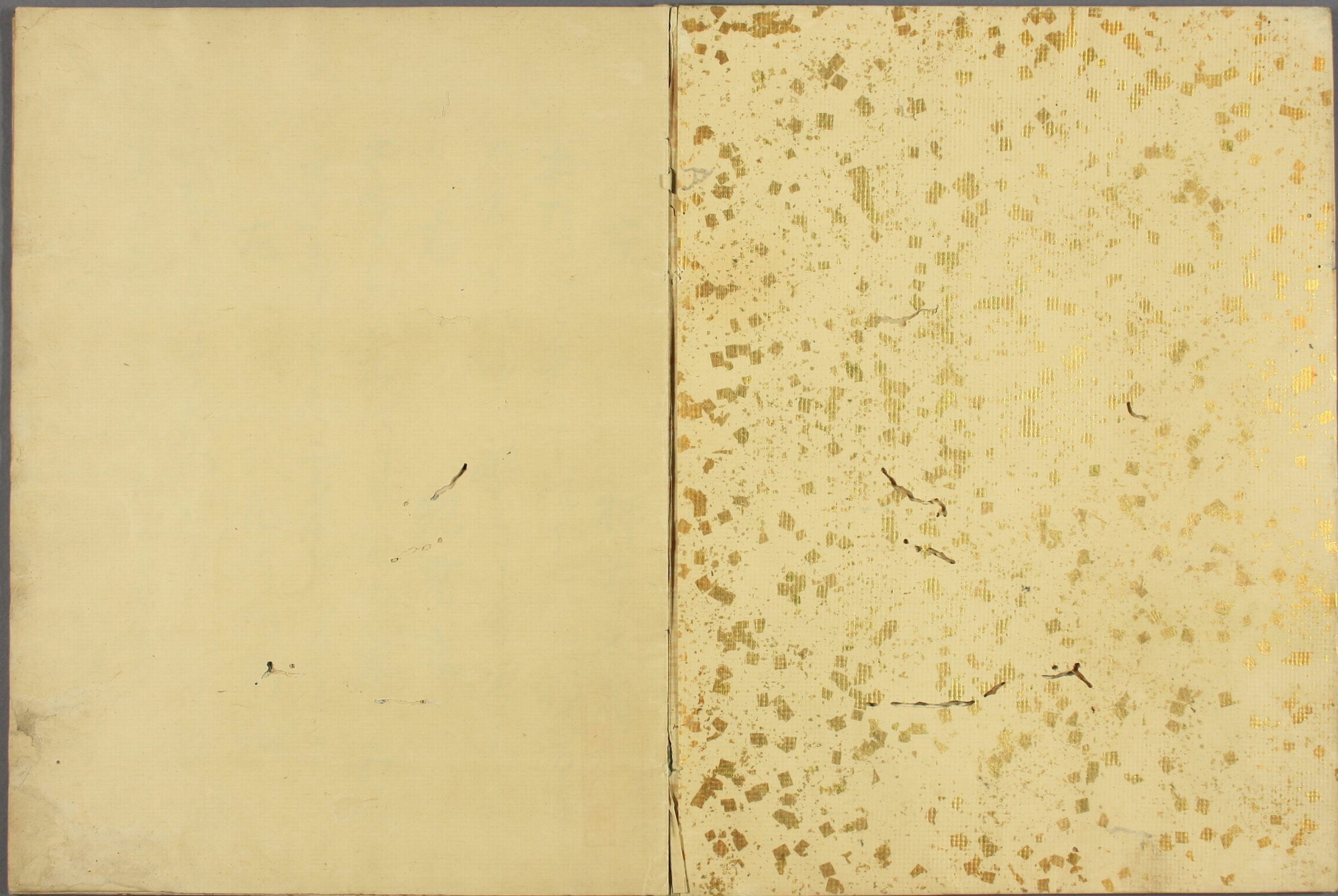




三十六歌撰





九曜文庫

左

柿本人麿

本乃つともあしけり所の好書なり
志まふれゆく旅をうらやみ

右

紀貫之

さくらさる本枝の風を宴にけり
なほ志まふ旅をうらやみ

左

凡河内躬恒

いぢくごもき旅の道よりわきく
あふみよりけりやまのちり

右

伊勢

さくら花の心より春もあらみむごとく娘と母
しるぬる人しあはれむと申す

七

中納言家持

と侍の野より春家さくら花の妻と恋り
を侍りあはれむと申す

六

山邊赤人

和の舟浦よ志本とらふれかゝるまに
あはれむと申す

五

左京業平初長

在中に強きとて花のなつるまに
さくら花とらふとけり

右

僧正遍昭

たしちよこかきとてしむむとて
こころのつとむとて

九

素性法師

さくら花の柳とて花のこころとて
みやと赤はる花に

右

紀友則

杖の世にばらうるまかまのきこもれ家
たの玉葉をさかあてまはれ

左

務九大史

於く山ふき地ふきぬく一の流
こゑこゑこゑまう杖うるま一記

右

小聖小町

るみきくこけうふとあま世中乃
世をれこゑのあま系有けり

七

中納言並補

人乃おやめこゑらに属ふあゝわい雲
子をとむこゑらさうさうひぬらう

六

中納言朝忠

阿らうとれ程そ一たのこゑら
ひととせしむ地母うまこゑら

五

權中納言敷忠

あゑこゑら乃こゑらふくこゑら
むしこゑらおりにそらりた

右

藤原高光

かきつらうつらみゆまよはれ申す
うらぶしとまある月

左

源公忠経五

おまやうい海とくは都
いふしと海かまらまのち

右

壬生忠岑

おのめはまねくまわら
あつまはこころおのま

左

齋宮女御

おまはまふみまは乃
いつまのまうりま

右

大中長頼基朝長

おまはまふみまは乃
おまはまふみまは乃

七

藤原敏行朝長

おまはまふみまは乃
おまはまふみまは乃

木

源重之

東世より西世の客に候ふは人の世の
くもくもくはとておぼくははれ

左

源宗于朝長

若くは若くもはたしむるも
ひびきしむるもはたしむるも

右

源信昭朝長

あだくもあまのこをたしむるも
くもくもくはとておぼくははれ

左

藤原清正

天津風ふけぬの海より
たのむるもはたしむるも

右

源順

水乃無りてる内なる
こよひはあまのこをたしむるも

左

藤原興風

ちかきもぬくもくはたしむるも
あまのこをたしむるも

右

清原元輔

まをりしめ河を我つめし物事出る
いそめ思ふ事半もたふよこもさる

七

坂上是則

まのり路の心乃ししち候ふは
あふもよこもむくたなりはせらるまつと

右

藤原元真

友への思ふ事けりふらりなる玉許の
まのりし人ともむくたなりはせらる

左

三條院女藏人左近

岩とけけりるのちさうしと
あふもよこもむくたなりはせらる

右

藤原仲文

まのり乃月の光とよはし本心し
あふもよこもむくたなりはせらる

七

大中長能宣親左

あふもよこもむくたなりはせらる
まのりし人ともむくたなりはせらる

右

壬生忠見

高田中平の右の右と申すはちうた
りていふ事なれども思はるるが

左

平直書

高田中平の右の右と申すはちうた
りていふ事なれども思はるるが

右

中務

高田中平の右の右と申すはちうた
りていふ事なれども思はるるが

